

伝統文化 子供たちの生け花教室

取材日：平成22年（2010年）11月4日

【団体の活動内容】

湖紫菫（こしほう）花のサークルは家庭とまちの暮らしに花で彩りを添えるよう、代表者 内山敦子氏（草月流師範 内山湖紫菫）が主宰する華道団体である。（団体設立：平成10年6月 会員数：40名）かねてから子どもの情操教育にいけ花の必要性を感じていたため、文化庁が募集していた「伝統文化こども教室」事業（日本の伝統文化をこどもが体験・習得する場）を平成17年度に委嘱を受け、行田中学校に生け花教室を開設した。船橋市が行うイベントにも参加し、「花フェスタ in ふなばし」では市長より感謝状を授与されている。

【支援金事業の内容】（支援対象経費総額 99,888 円 支援確定額 49,944 円 支援率 50%）

事業の費用は、教材用具費（教科書、参考書、花器）、印刷・製本費、大会発表費などに使用される予定となっている。

活動は行田中学校校長のご理解のもとに部活動と同様に扱われ、内山代表が講師になり本格的な生け花教室として生徒約11名を指導している。教室は放課後と夏休みを利用して約10回開催され、その間学校の文化祭や公民館のイベントにもその成果が披露される。2年間単位で継続され、最後にいけ花の免許が授与される。生徒の会費は無料。

花を生けることで子ども達の心が明るくなり、環境への関心も高まることから、市教育委員会を通して他の学校にもこの事業が展開されることを期待している。

【活動の現場から】

取材した当日（11月4日）は、ちょうど行田中学校の文化祭の前日で、会場（体育館）の舞台花の飾り付けを女子生徒4人が内山講師の指導のもとにさまざまな花を飾り付けていた。

黄色い百合、赤のダリア、ひまわり、小菊、フォックスフェイス（きつねの顔）、八つ手などを広い舞台に映えるよう、客席に向かって大きく広げ、それを茶色に染めた和紙で下から支え「秋の色」を見せている。内山講師は花全体を大きくふくらみを見せるよう、バランスをとるよう生徒に声をかけ、生徒も自分で納得いくよう一つ一つの花に丹念に手をかけていた。

舞台上で花を生けた後、内山講師と石川校長を交えて次の様にお話しをうかがった。

- ・生徒は進学や部活などの問題があるものの、みな熱心に取り組んでいる。
- ・事業の支援金は有り難い。内山講師が殆どボランティアとして務めている。
- ・今後、小学生や地域の方に参加していただくには、会場の場所の確保が問題となる。



花を生ける生徒さんと内山講師

【事業に期待される効果】

これまで5年間実施された事業を引き続き継続するため、この支援金を有効に活用されるよう望まれる。そしてこの活動は生け花教室の実施にとどまらず、学校の教育力と地域の力を結び付けるモデルの一つと期待される所から一層の事業推進が望まれる。そのため学校側の一層の協力、会費の有償化や華道団体の千葉県支部との連携など幅のある活動を進めることが必要と思われ、また事業結果の評価を受け（例：生徒、保護者からのアンケート）、その成果を外部に大いに発信する必要もあるのではないかと考えられる。

【取材を終えて】

通常の定例教室の様子は取材出来なかったが、舞台の花台に花を生ける状況を見た限りでも、行田中学校の生徒は自信を持って行動していた。「生け花は生ける人を現す」と言われるが、内山代表の生け花に対する情熱が「花を生ける」ことを通して、生徒に伝わっていると感じられた。次世代の育成に貢献する当事業の順調な進捗を応援したい。

関わり先（連絡担当者）
湖紫菡花のサークル
代表 内山 敦子
TEL：047-424-5223